

# 破天荒

教宣部

5025号

2017年  
6月 6日

化学一般京滋地本  
全竹中労働組合

# 2017 夏季一時金 「要求は3ヶ月」



昨日、夏季一時金の要求を提出してきました。要求は三カ月、回答指定日は十五日、一時金支給日は七月五日の予定です。

### 安定した月数

組合は安定した一時金月数を求めています。例えば去年は一月分で今年は三カ月、来年のことはわからないでは、住宅ローンや教育費などの見込みも立たず、生活のやりくりが大変になるからです。

アできている段階でプラスの上積みは組合としてはグレイゾーンに位置づけます。人物本位主義ならフィードバックが機能してしかるべきだと思っからです。

組合員には、フィードバックもない。(規範となる?) 上司の意見に左右されるような現在のシステムには断固として反対し、現在査定は行われていません。

非組合員にはどちらかという懲罰的な意味合いでマイナス査定が行われているように見受けられます。マイナス査定された人には「なにくそ、やってやる」といった気持ちで奮い立たせるようなバックアップを行った事例は聞いたことがありません。



### 世間では

賃上げを抑える代わりに一時金込みの年収で、消費税や月々の生活費の補てんという方向に舵を切っています。賃上げを抑えるという事は、退職金や年金など生涯賃金という見方をした場合、労働者にとっては得な方策とは言えません。

### 竹中では

一九九〇年以降、一定の方式(一人当たり対象月経常利益を基礎に計算する式)で運用するようにになりました。回答指定日に回答した月数を交渉によって変えることもなくなりました。組合は月数に不満はあるものの、支給日を大切にできた結果として妥結せざるを得ない状況が続いています。

### 業績

組合としては、業績が良くも悪くもトップの功績や力量だと考えています。従業員が誰かが会社に損をさ

せようなどと思っっているわけもなく、誰もが生活のため必死で働いているからです。

そういう意味で、電子ではリーマンショックの時に制御機器業界六割復帰説を勝手に唱え本当に売り上げを六割にした前社長、前年並みの売り上げをキープする現社長。

オプトでは売上・利益とも過去最高を更新する現社長。システムでは赤字続きまで継承して屋台骨まで変質させてしまった現社長。…など三社三様ではあります。

組合としては、不況知らずのグループセンターやエンジンなどグループ全社の利益から一時金を供出すれば安定したものになると主張しています。



### 危険な共謀罪法案を 通してはならない

「話し合うだけで罪となる」共謀罪法案の審議が進められています。しかし政府の答弁は混迷を深めるばかりです。「市民は対象とならない」と一方が言えば、一方は「一般市民も対象となる」と正反対の矛盾した答弁が続きます。心のうちで考えている「内心の自由」が罪に問われる、近代刑法の原則に反する法律ですから問題点は山積みです。いい加減な答弁は許されないので、安倍首相と法務大臣の答弁はあいまいさをますばかりです。

国際条約はテロ対策を求めた以上、テロ対策のためという口実は成り立ちません。オリンピックのためなんて言い訳は、まったく関係ありません。

「乱用はしない」なんて言葉も、現実に警察が関係ない人たちを監視している以上、信用できません。社会を委縮させる共謀罪法案は、市民社会と民衆主義を破壊します。